

## 校長挨拶

今年は例年より早く桜が開花し、3月下旬には外壁塗装工事を終えて真っ白に輝く校舎を背景に、美しい桜が満開を迎えました。繰り返す春の雨に桜の花は散っていきましたが、入学式を迎えるころには山々に美しい若葉が広がる季節となっていました。

若葉のように輝く小学部3名、中学部3名、高等部2名の入学生を迎えて、全校44名の児童生徒が令和8年度の学びをスタートしました。長良特別支援学校では、「元氣な病弱教育」をスローガンに、一人一人の教育的ニーズを的確に把握しながら、個別具体的に応じた教育活動を行っていきます。

人工呼吸器を使用する児童生徒など重症化リスクのある児童生徒が多く在籍する当校においては、教員と看護師が連携して安心・安全な医療的ケアを実施すること、医療機関と連携した緊急時対応の整備が不可欠となります。児童生徒の体調急変時、非常変災時には隣接する長良医療センターと連携して対応できるように、合同訓練も実施しながら、児童生徒が安心・安全な学校生活を送れるようにしていきます。

安心・安全を土台として、児童生徒と保護者と教職員、そして地域がつながりのある教育実践を展開していきたいと考えています。感染症対策を確実に実施しながら、児童生徒が学部・学校を越えてかかわり合える機会をつくったり、校外学習や宿泊を伴う学習を行ったりしながら、人とのかかわりを広げ、体験活動を充実させていきます。

普段の授業だけでなく、eスポーツ大会や金華祭、ドリームアート展などの行事を通して、児童生徒が「できた」という自信や達成感、表現する力を高めるとともに、周りの人たちから認められる経験を通して自己肯定感を育てていきます。

また、病弱特別支援学校のコア・スクールとしては、県内の特別支援学校や小中学校、高等学校等へ病弱教育の情報を発信し、コア・ティーチャーとコーディネーターが連携して外部への相談支援を積極的に行っていきます。

「子どもたちを元気に、保護者も元気に、教職員も元気に、そして地域も元気に」

一人でも多くの方にこの長良特別支援学校を知っていただき、学校の応援団になっていただきたい。そして、病気や障がいの有無にかかわらず、一人一人が夢や生きがいをもって「共に生きる」社会をつくっていきましょう。

令和8年4月17日

校長 井原 誠